

条幅部自由参考

8月25日正午必着

明石春浦先生書



秋愛冷吟春愛酒
あきはれいぎんをあいしはるはさけをあいす。

詩家眷屬酒家仙
しかのけんぞくしゅかのせん

白樂天

詩酒を友とする。

明石幸子書



寒雨黃沙暮
かんうこうさのくれ
 何人畫圖裏
なんびとかがずのうち
 一一寫邊愁
いちいちへんしゅうをうっさん

西風白草秋
せいふうはくそうのあき
 (釋 絶海)

石 橙 茶 香 清 暑 後 書
 窓 梧 韻 晚 涼 餘 書

窪田華岳先生書

石橙茶せきとうさこうせいしよのものち香清暑後しよそういんぼりまうのよ書窓梧韻晚涼餘(鄭炳泰)

さわやかな昼さがり 石の橙で茶の香りを味わい
 すぐやかな夕暮れ 書齋の窓辺で琴の音を樂しむ

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

敷華就實 (鄒子樂)

華を敷き實に就く

夏花咲きて秋に實となる。

碧山過雨晴逾好 (袁士元)
 綠樹無風晚自涼

碧山雨過へきざんあめす晴せいいよいよ好よく
 綠樹りくじゆ無風むかぜな晚くれ自涼おのずかすず

青山にひと雨すぎて雨後の景色はひとしお好く、
 綠樹に風はそよがなくとも夕暮は自然に涼しい。

送曹椅 (司空曙)

曹椅を送る 司空曙

青春三十餘 衆藝盡無如
 中散詩傳畫 將軍扇賣書
 楚田晴下雁 江日暖多魚
 惆悵空相送 歡遊自此疎

青春せいしゆん三十餘さんじゅうよ 衆藝しゆぎ盡ことごと無如なし
 中散ちゆうさん詩は画えを伝つたえ 將軍しやうじゆんの扇あふぎは書しよを売うる
 楚田そでん晴はれて雁かりを下くだし 江日かうじつ暖あたたかくして魚うおお多おし
 惆悵ちゆうちやうとして 空むなしく相送あひおくる 歡遊かんゆう 此これ自より疎そならん

東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたはむる (石川啄木)

半紙部規定課題A

8月25日正午必着

無事 林下 僧

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



西郊蘭若

羊士諤

雲天宜北戸

塔廟似西方

林下僧無事

江清日正長

石泉盈掬冷

山實滿枝香

寂寞傳心印

無言亦已忘

西郊の蘭若

羊士諤

雲天 北戸に宜しく

塔廟 西方に似たり

林下 僧 事無く

江清くして 日正に長し

石泉 掬に盈ちて冷たく

山実 枝に満ちて香し

寂寞として 心印を伝ふ

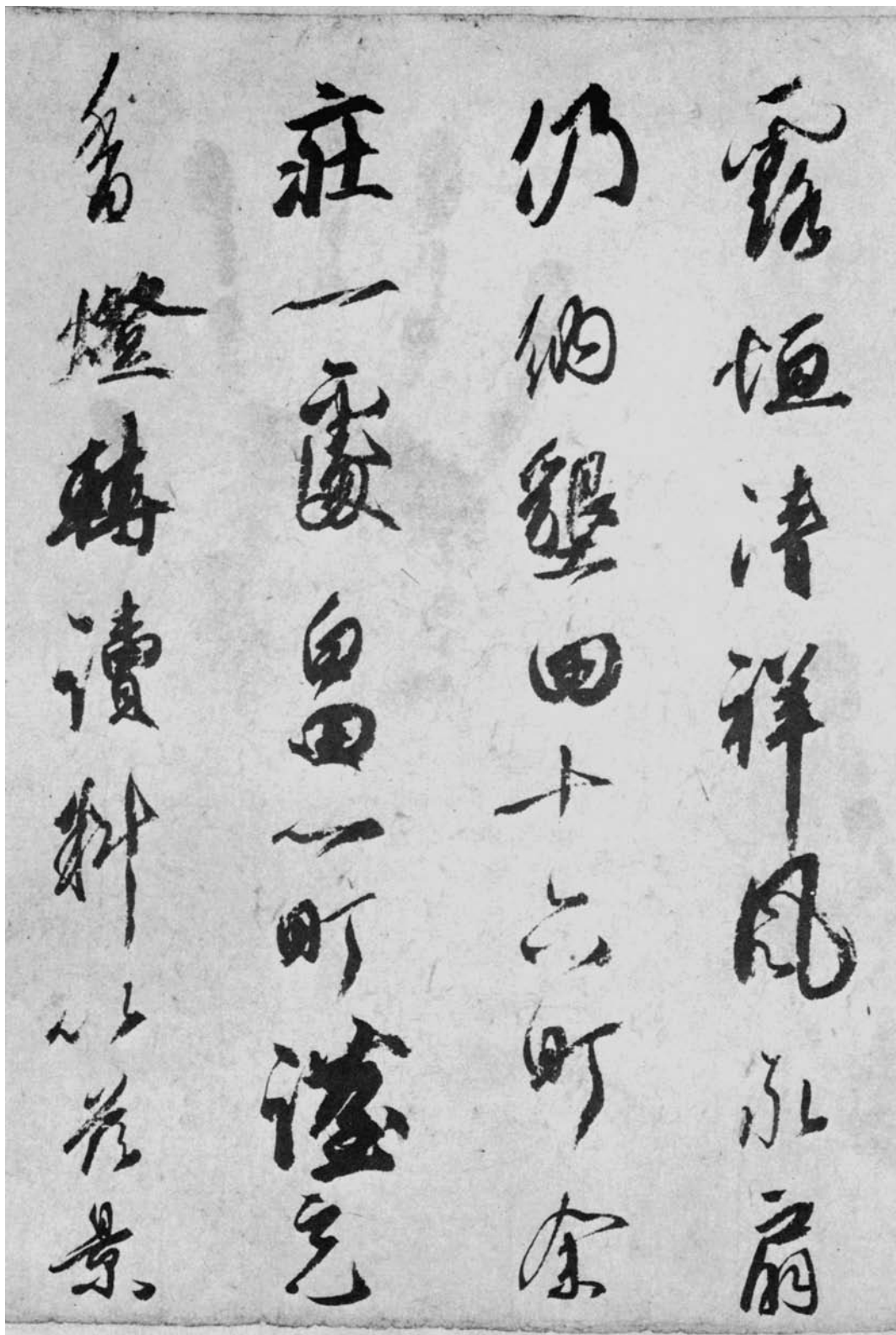
無言 亦た已に忘る

北向きの戸を開けば、雲たなびく空のまことよろしき景色 堂塔のたたずまいは、まるで西方浄土のよう

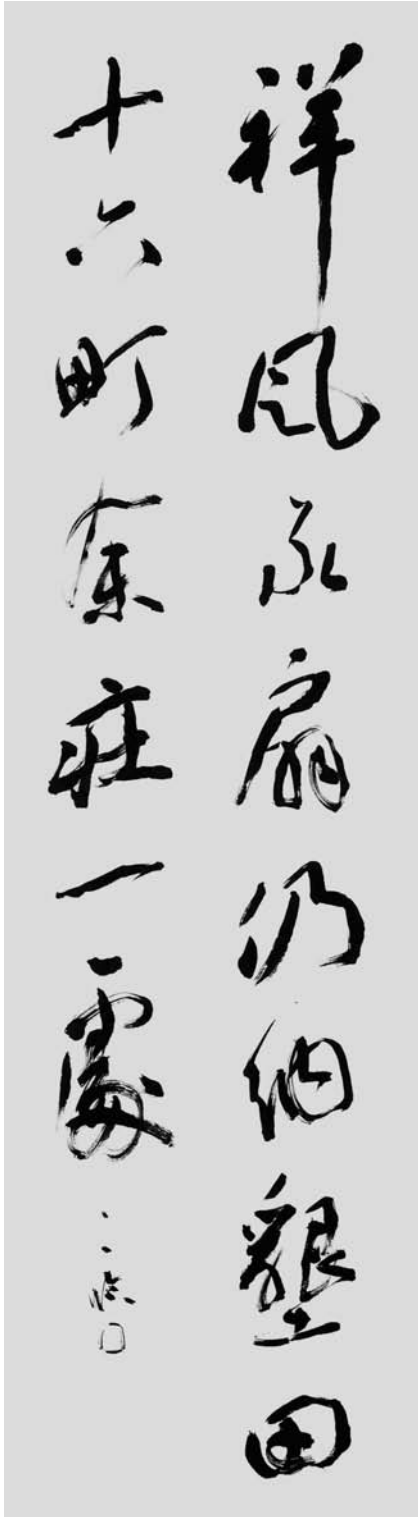
林の下に、僧たちは何の俗事もなく 江は清く澄んで、日は今や暮れなすむころ

岩石の間にわき出る泉、手にいっばいにすくえばひんやりと冷たく 山中の木々は、枝にいっばいに実をつけてかぐわし

い ひっそりとしずかに、仏心のしるしを伝え、ことば無しということすらをも、もはや忘れてしまった

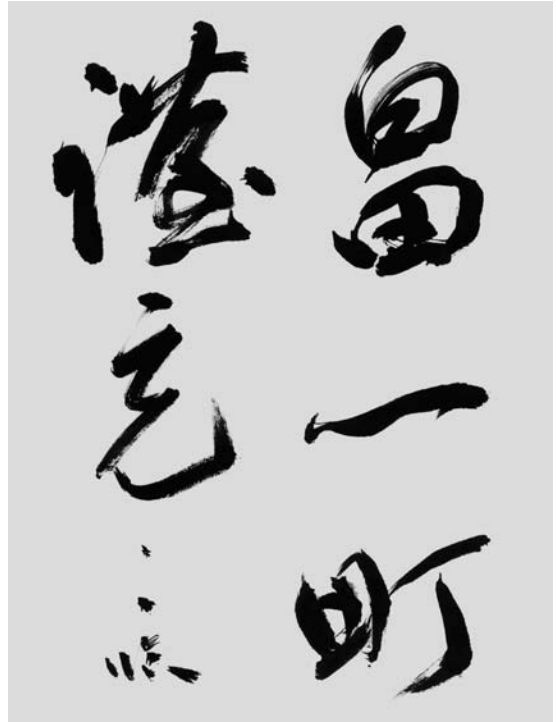


露恆清。祥風永扇。仍納墾田十六町餘 莊一處 畠一町。謹充香燈轉讀料。以茲景



祥風永く扇がん。仍て壱田十六町余、莊一処、(畠一町を)納め、

※このお手本は、叶先生がご病氣療養中にもかかわらずご揮毫いただいたものです。



畠一町を(納め)謹んで(香燈轉讀料に)充てん。

伝 橋逸勢・伊都内親王願文

三百年にも及ぶ平安時代の初期において、書道史上特にすぐれた能書家を三筆とよんでいる。嵯峨天皇、空海、橘逸勢がそれである。

橘逸勢に関する資料はほとんど残っていないが、延暦二十三年(八〇四)、平安朝が始まって最初の遣唐使船に乗り、空海や最澄らとともに中国留学をしている。渡唐中の彼は中国の文人たちに「橘秀才」とよばれたほどの秀才の持ち主であつたらしいが、帰国してからはあまり出世しておらず、従五位下という位の但馬権守になつたのは死ぬ二年前のことである。嵯峨天皇が亡くなって二日後の承和九年七月十七日、逸勢は謀反の疑いをかけられ、橘姓をうばわれ、非人として伊豆へ流されることになってしまう。そして、その護送の途中で命を落とすという非業の最期をあげている。厳しい拷問にも屈服しない度胸のすわつた剛毅な性格であつた彼は、身に覚えのないことを認めるわけにはいかなかつたのである。死後八年がたつて彼の汚名は取り消され、正五位下が追贈された。また、その後も位の追贈が行われ、それと同時に生前の彼の才能も注目されるようになり、三筆と呼ばれるようになったのである。

伊都内親王願文は、桓武天皇の皇女伊都内親王が、母藤原平子の遺言によって、興福寺の東院西堂に香燈読経料として田畑等を寄進したときの願文である。逸勢の筆という確証はないが、俯仰法を駆使し、ねばり強く力感あふれ、躍動感のあるこの書は彼の気骨をあらわしていると言えよう。

※神仏への願い事を記した文。(春濤)

8月25日正午必着

教育部毛筆



はく
博

しき
識

中学一年

雨宮春聲先生書



こう
航

かい
海

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



しお
塩

みず
水

小学五年

藤井良泰先生書



しゅく
宿

だい
題

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着



おお
大

そら
空

小学三年

細谷春誠先生書



こう
広

こく
告

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

せ み 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

で 出 る 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

太陽が木のこずえを
 明るく照らしている

小学五年

真夏の強い日ざしを
 浴びたひまわりの花

小学六年

海辺に築いた砂の城よ
 せ来る波に消えてゆく

中学

雄大に緑の峰を突き出し
 て空にそびえたる夏の山

一般(級位)

時鳥夜ぶかき聲は月待つと起きていを寝ぬ人ぞ聞さける
 (凡河内躬恒) ※寝を寝ぬ…寝ない

起きそいでいそひぬくそひぬく

時鳥夜ぶかき聲は月待つと

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

が	せ
	ん
き	こ
れ	う
い	は
て	な
す	び

幼年

る	さ
	ざ
白	な
い	み
ヨ	に
ッ	ゆ
ト	れ

小学一年

に	か
	え
と	び
	る
こ	が
ん	池
だ	の
	中

小学二年

わ	夏
	の
た	山
	に
る	ひ
せ	び
み	き
の	
声	

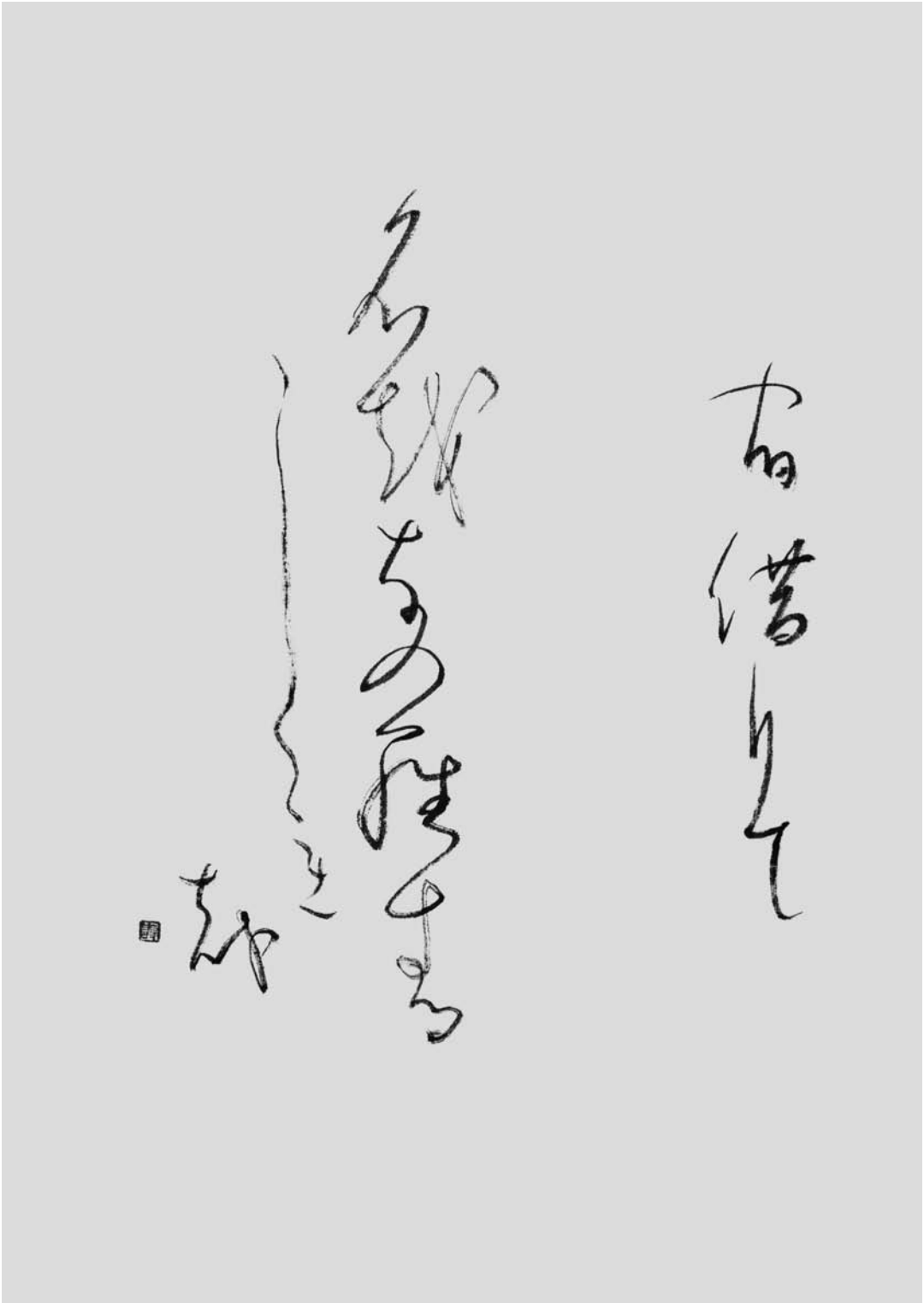
小学三年

い	夏
	山
植	に
物	は
が	め
さ	ず
い	ら
て	し
い	
る	

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



宿借りて 名をなのらする 之しぐれ哉 (松尾芭蕉)

岩本景楓先生書